

令和2年度 小川中学校 学校評価報告書

評 価 項 目	評価	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
各学校での目標（重点は○数字）・具体策				
I 特色ある学校づくりのための学校運営				
1 定期的に情報発信・収集を行う。 ・学校ホームページを定期的に更新し情報の発信と啓発を図る。 ・外部アンケートを実施し、学校教育活動の改善に努める。 ・PTA役員・学校評議委員等と定期的に情報交換の機会を設ける。	A	・学校だより、HP、学年だより等定期的に発行し、学校の様子を保護者に伝えることができた。 ・学校教育診断アンケートを年間2回実施し保護者の考え方を把握することができた。	・今後も継続的に学校の情報を積極的に発信していく。 ・保護者、生徒アンケートを分析し次年度の教育計画に取り入れていく。	・学校ホームページで生徒の学校生活の様子がわかる。 ・アンケート結果をしっかり分析して次年度に活かしてほしい。
2 地域の特色を生かした総合的な学習の時間を推進する。 ・地域の特色・人材を生かした総合的な学習を推進する。 ・地域の教育資源を有効活用できるよう各指導計画を見直したり位置付けたりする。	B	・総合的な学習の時間では、なす風土記の丘と連携や「たたら製鉄」体験など地域の特色を生かした学習、音楽の授業では、地域のボランティア講師による「まほろば太鼓」の学習を予定していたが、いずれもコロナ禍のため実施できなかった。	・各学年において、地域の特色を生かした学習を年間計画に位置付ける。総合的な学習の時間では、体験活動を重視した「探究活動」が充実するよう工夫していく。	・次年度は感染症対策を講じて地域の特色を生かした学習を実施してほしい。
II 確かな学力の向上を図る学習指導				
① 学習指導の充実 ・主体的・対話的で深い学びの充実を図る。 ・基礎的、基本的な学習内容の定着のために家庭との連携を図る。 ・「わかる楽しい授業」を展開する。 ・ICT機器を効果的に活用する。	A	・ねらいを明確にし、ねらいに即した振り返りを行う授業実践に努めることができた。 ・学ぶことに興味や関心を持たせるよう課題の提示の仕方を工夫した。 ・休校があったため、授業進度に細心の注意を払って授業を行った。 ・話し合いやグループ活動では、密な状態にならないよう机の配置等を工夫した。また、指導者間で留意事項について連絡を適宜に行い、共通理解のもと指導にあたった。 ・一人一台タブレット端末貸与時の効果的な使い方について検討する。	・次年度はICT機器の活用や学習評価の在り方等、必要な研修を計画的に実施する。 ・感染症の具合にもよるが、今年度不十分であったグループ活動や表現活動を充実させる。 ・ICT活用のための研修を進める。 ・学習評価の在り方については研修を進め、共通理解のもとに行えるようにする。	・長い休校期間があったが、学習内容に遅れがなく先生方の努力を感じる。 ・タブレット端末を有効活用し、不登校生徒等への学習に役立ててほしい。
III 自己指導能力を高める児童・生徒指導				
① 豊かな心を育てる生徒指導の推進 ・道徳教育の充実を図る。 ・「感動」を生む体験活動を推進する。 ・人権教育の推進、充実を図る。 ・自己有用感のある学年学級経営を実践する。 ・教育相談の充実と組織的対応を確立する。	A	・生徒は落ち着いた学校生活を送っている。 ・新型コロナウイルス感染症のため削減された行事が多いが、普段の学校生活の中での生徒への声掛けや努力を認める励ましなどで、生徒の自己有用感を高めることができた。 ・12月の人権月間では、一斉道徳授業や掲示物の工夫など様々な活動を行った。生徒会が主体となって行う活動は効果的であった。 ・体験的活動がコロナ禍の影響で大幅に削減となったが、マイ・チャレンジ活動の代替活動を見学旅行で実施できた。	・自己有用感を育むために小規模校であることを生かした教育活動を実践する。	・次年度も修学旅行が実施できるようお願いしたい。

2 学業指導の充実 ・帰属意識と規範意識の高揚と互いに高め合える学級づくりを推進する。 ・生徒に自信をもたせる授業を実践する。 ・一人一人の実態に配慮した授業を実践する。	A	・合唱コンクールは規模を縮小して行ったが、学級のまとまりを意識し、一人一人がよりよいものを目指し協力して練習した。 ・日々提出する学習の記録ノートに丁寧にコメントした。 ・数学科では習熟度別学習、英語科ではTTを行い個に応じた指導に努めた。	・生徒に自信をもたせる授業の在り方について工夫する。	・複数の教員による効果的な授業が行われている。
IV 健康・安全、体力の向上		・感染症対策を講じながら、朝練や部活動を実施し生徒一人一人の運動に対する意識の高揚が見られた。 ・避難訓練をととして生徒の防災意識を高めることができた。 ・今年度は、例年に比べて給食の残食が多い学級が見られた。	・感染症対策に慣れが生じる場面が見られたので指導に工夫が必要である。 ・栄養教諭による食育に関する講話を実施する。	・感染症対策のため、無言で同方向を向いて食べる給食が印象的であった。
① 健康教育の充実と体力向上を推進する。 ・健康で安全な生活態度の育成を図る。 ・主体的に取り組む体力づくりを推進する。 ・安全教育、防災教育の充実を図る。 ・健康な心身を育むための食育を推進する。	A			
2 自分の生き方を考える教育の充実を図る。 ・キャリア教育、進路指導の充実を図る。 ・ハッピースローププランに基づく教育を推進する。 ・「なかがわ学」を推進する。	B	・感染症対策のためマイ・チャレンジ等、体験活動が実施できなかった。	・感染症の状況にもよるが、次年度は、対策を施し実施できるよう早めに計画を作成する。	・マイ・チャレンジ活動が再開できることを願う。
3 安心・安全な学校づくりの推進 ・教育環境を整美し充実を図る。 ・教職員の危機管理意識を確立する。 ・生徒の危機予知能力の育成と向上を図る。 ・施設・設備の安全管理を徹底する。	A	・校舎改修工事の実施に合わせて、教室や教材の整備を行った。 ・危機管理マニュアルと個人情報保護規定の見直しを行った。 ・安全点検を定期的に実施した。破損箇所等は速やかに修繕した。	・生徒の危機予知能力の育成と向上のため、生徒とともに安全点検を行う機会があるとよい。	・校舎改修により、きれいで使いやすい校舎になった。
V 家庭・地域との連携		・次年度は地域の教育的資源を活用したり、ふるさとを学ぶ機会の充実を図ったりする活動を計画する。 ・携帯電話、スマートフォンの利用に関するアンケートを実施した。生徒の実態を把握する。問題点については、学年PTAや学校だより等を活用し家庭や地域と連携して改善に努めた。 ・自主学習ノートを活用し、年間を通して家庭学習の推進を行うことができた。 ・学年PTA等で、保護者に対して家庭学習について啓発を図った。	・携帯電話、スマートフォンのアンケート結果より学年が上がるにつれて所持率と使用時間が上がっていく。正しい利用の仕方について啓発していく。 ・PTA 学年部会の保護者の参加率の低下が見られた。内容等を工夫したり、参加呼びかけを行ったりして、改善を図りたい。	・スマートフォンによる友人トラブルが多いと聞く。今後も保護者と連携して正しい使い方について啓発をお願いしたい。
1 「地域とともにある学校」づくりの推進 ・ふるさとを学ぶ機会を充実させる。 ・地域の教育的資源を積極的に活用する。 ・ホームページや各種たよりによる情報発信を行う。 ・家庭・地域と連携し生徒の基本的な生活習慣の育成を図る。	B			